PRESS RELEASE
報道関係者各位

変化を楽しむ人であれ
京都橘大学

2026年11月2日
京都橘大学
【計2枚】

京都市のNGOテラ・ルネッサンスと連携し学生が企画運営！ ウガンダ元子ども兵の支援から国際協力を考える ドキュメンタリー映画『RETURNEES』上映会・講演会を開催

日時：2026年11月5日(木) 17：00～19：50
場所：京都橘大学 明優館1階 D101教室
参加者：本学学生、教職員　約100名　※学内関係者のみ

京都橘大学（京都市山科区、学長：岡田知弘）では、11月5日(木)、認定NPO法人テラ・ルネッサンス(京都市下京区、理事長：吉田真衣)の小川真吾氏を講師に迎え、ドキュメンタリー映画『RETURNEES（リターニーズ）～元子ども兵 それぞれの再起～』の上映会および講演会を開催します。

本企画は、ウガンダ北部の紛争や元子ども兵が置かれてきた過酷な現実を、学部・学科の枠を超えて全学の学生・教職員が知る機会として企画されました。京都に本部を置き、現地で長年支援を積み重ねてきたテラ・ルネッサンスの活動を深く知ることで、地理的に離れたアフリカの課題にまなざしを向け、自分自身の学びや具体的な行動へとつなげる契機とすることを目的としています。

小川氏は、2005年からウガンダ北部に駐在し、職業訓練や識字教育、心のケアなど、20年以上にわたり元子ども兵たちの社会復帰支援に取り組まれてきました。また、同認定NPO法人の理事長を長年務め、世界各地の紛争被害者に寄り添った支援活動を実践してこられました。今回の講演会では、小川氏の活動を通じて元子ども兵の再起を描く映画『RETURNEES』について、その裏側と支援にかける想い、国際協力のあり方についてお話しいただきます。

本学では、国際英語学部※の正課科目「国際関係PBL」において今後テラ・ルネッサンスとの共同授業を実施し、ウガンダを取り巻く社会課題を解決するために何ができるかを考え、学生がチームでプロジェクトを策定する予定です。本企画を通じて、紛争被害で苦しむ現地の人々とともに課題を解決し、ともに歩んでいく国際協力のあり方を考える機会にしたいと考えています。

※ 2027年4月に国際英語学部から国際学部に名称変更

【映画『RETURNEES』上映会・講演会・学生ポスター展について】

開 催 日：2026年11月5日(木) 17：00～19：50 (開場16：30)
場　　所：京都橘大学 明優館 D101教室
参 加 者：本学学生、教職員　約100名
講　　師：小川真吾氏 (認定NPO法人テラ・ルネッサンス理事・海外事業部長)

進行予定：
16：30　開場
　　学生ポスター展示
17：00　開会、企画趣旨説明
17：10　映画上映
19：05　小川氏講演
19：20　小川氏×槌谷准教授
　　×学生 クロストーク
　　質疑応答
19：50　閉会

【登壇者プロフィール】

●小川 真吾 (おがわ・しんご) 氏
1975年、和歌山県生まれ。学生時代、カルカッタでマザーテレサの臨終に遭遇、マザーテレサの施設でボランティア活動に参加。
大学卒業後は、青年海外協力隊員としてハンガリーに派遣。
2005年より、ウガンダに駐在し、元子ども兵社会復帰支援プロジェクトを実施。
帰国後、2011年3月から2023年10月までテラ・ルネッサンスの理事長を務める。
2023年11月からは理事および海外事業部長として、ウガンダ、コンゴ、ブルンジでの元子ども兵や紛争被害者の自立支援に関わりながら、テラ・ルネッサンス全般の経営を担っている。著書に『ぼくは13歳 職業、兵士。』(合同出版)、『ウガンダを知るための53章』(明石書店)がある。



●取材・内容についてのお問い合わせ先
京都橘大学広報課　担当：立木、前川　TEL：075-574-4112　E-mail：pub@tachibana-u.ac.jp

別紙

変化を楽しむ人であれ
京都橘大学

【映画『RETURNEES～元子ども兵 それぞれの再起～』について】

10歳前後で誘拐され、意思を奪われ、人生そのものを奪われた元子ども兵たち。肉親を殺され、数えきれないほど死を目撃し、命令に抗えず殺人に手を染めた者も多い。被害者であり、誘拐や虐殺に加担した加害者でもある。彼らは10年、20年もの間、戦うことを唯一の目的とする環境で過ごしてきた。2023年、元子ども兵とその家族140名あまりが武装勢力の活動地域から逃げ、ウガンダに帰ってきた。彼らはこう呼ばれる ―リターニーズ（帰還者たち）

殺戮に手を染めた彼らの受け入れを拒絶する社会の壁は厚い。親族ですら忌避する。果たして彼らは、生きる場所を見つけることができるのか。長年、元子ども兵たちの支援を続けてきた小川真吾（NPOテラ・ルネッサンス）は、彼らとともに新たな挑戦を始める―。

【RETURNEES上映実行委員会 学生のコメント】

国際英語学部 国際英語学科※3回生　池端 夏有

私はマレーシアで難民交流をした経験があり、これまでアジアの貧困・難民問題に強く関心を寄せていましたが、映画『RETURNEES』を通じアフリカの元子ども兵や復帰支援の現状を知りました。今回の講演会やクロストークでは、現地で支援を続ける小川氏から直接お話を聞くことで、一人の学生として今何ができるのかを考え、行動へとつなげるヒントにしたいです。

【担当教員のコメント】



国際英語学部 国際英語学科※准教授　槌谷 恒孝（つちや・つねたか）

【専門分野】
国際関係論、平和構築論、人間の安全保障、国際開発学

【コメント】
平和構築を進めるうえでは、現地の人々に寄り添った支援が重要です。こうした国際協力に取り組むNGOと接点を持つことは、本学の学生にとって貴重な機会となります。本学と地元NGOのテラ・ルネッサンスが連携することで、学生が社会課題や国際協力に関心を持ち、自分にできる行動を起こすための学びにつなげてほしいと願っています。

【国際学部 国際学科※について】

2027年4月より「国際英語学部 国際英語学科」から「国際学部 国際学科※」へ改称
2026年4月に「グローバルスタディーズ専攻」と「国際共生専攻」の2専攻制へ再編

●グローバルスタディーズ専攻

【グローバルな視野と多文化共生社会での課題解決力を備えた未来のグローバルリーダーを養成】
1年間の留学を必須とし、帰国後は英語での専門科目の学修も行います。国際関係や文化、社会、経済を学び、グローバルリーダーに必要な国際的な視野と、多文化共生社会での課題解決力を養い、グローバル企業や国際機関での活躍を目指します。

●国際共生専攻

【キャンパス内で多様な留学生たちとともに学び、多様な価値観や教養を身につけた国際人を養成】
世界の様々な地域から集まる留学生と、国際都市・京都でともに学び、異文化交流を通じて、高度な語学力と多様な価値観を身につけます。

※ 2027年4月に国際英語学部国際英語学科から国際学部国際学科に名称変更

●取材・内容についてのお問い合わせ先
京都橘大学広報課　担当：立木、前川　TEL：075-574-4112　E-mail：pub@tachibana-u.ac.jp